

こども家庭庁のEBPMの 在り方

大阪大学CiDER
大竹文雄

EBPMを正しく理解する

- 従来の政策評価も含まれるがそれが中心ではない
 - EBPMを過去の政策の効果検証だけだと考えるのは間違い
 - 今後行う政策候補のうち効果が大きいものを事前テストで明らかに
 - エビデンスに基づいた政策形成のうち、「政策形成」が重要
- 従来の政策形成の考え方
 - ベストの政策があらかじめ分かっているそれを実行する
 - 実際には、過去、別の場所でうまく行った政策であっても、対象者が異なると効果が異なることがある
 - 事前テストをして全面的に社会実装をするというプロセスが必要
- エビデンスだけで政策は決まらない
 - 複数の政策目標がある際には、政策選択は価値観に依存する
- エビデンスがないと政策ができないわけではない

データを分析可能な形に

- データを分析可能な形に整理しておく必要
 - アウトカムとされる情報と様々な政策介入に関するデータを分析可能な形で整理する
 - 分析者に第3者を入れる
- 政策を効果検証可能な形にしておく
 - モデル事業
 - 応募したところは意欲が高い主体に偏る
 - 計測可能なアウトカムを作っておく
 - 偶然生じた政策介入の差の情報を自動的に集めておく
 - 行政データを利用可能にする